

受領No. 1622

オールド・ニュータウンからヘルシー・ニュータウンへ：居住者の歩数を増加する都市変容

代表研究者 加登 遼（大阪公立大学 講師）

From Old New-Towns to Healthy New-Towns: Urban transformation to promote residents' daily walking steps

Representative Haruka Kato (Junior Associate Professor, Osaka Metropolitan University)



研究概要

本研究の社会的必要性は、オールド・ニュータウンの再生である。オールド・ニュータウンとは、高度経済成長期、大都市圏周辺地域で大規模に開発された一団の郊外住宅地である。そのオールド・ニュータウンは、急速な高齢化を伴う人口減少を経験している。そこで受領者は、大阪都市圏のオールド・ニュータウンを対象に、人口変化と関係する都市変容を分析した結果、住宅から医療福祉系施設に変容させた事例が多いオールド・ニュータウンほど、人口が維持していることを解明した（Kato and Takizawa, 2024）。この結果は、「ヘルシー・ニュータウン」という、新たなビジョンの有効性を示している。

この研究成果を踏まえた本研究は、大阪府のオールド・ニュータウンを対象に、居住者の歩行を促進する都市変容を解明する。それにより、住宅から医療福祉系施設への都市変容が、人口だけでなく、居住者のヘルスケアにも寄与するか検証する。その結果は、オールド・ニュータウンからヘルシー・ニュータウンへの変容させる技術的要件に関するインサイトを提供するだろう。それにより、日本から世界に向けて、第二の New Town Movement を引き起こして、将来的に日本と同様の課題を抱える東アジア諸国にも貢献することが期待できる。